

## 第3回長野県安曇野地域における公共交通システムの構築に関する検討会 会議概要

1	委員会名	長野県安曇野地域における公共交通システムの構築に関する検討会
2	日時	平成18年9月26日(火) 午後1時30分～3時30分
3	会場	堀金総合支所 301号会議室
4	出席者	奥山委員、秋山委員代村上委員、小林委員代塩沢委員、小林忠由議員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、藤原委員、尾台委員、二木委員、鎌崎委員、小林忠孝委員、米倉委員、黒岩千委員、岡村委員、水谷委員代米倉委員、古澤委員、宮崎委員、曲淵委員、黒岩豊委員、土肥委員、堀田委員、三澤委員、八木委員、浅見委員
5	国出席者(委員以外)	熊井首席運輸企画専門官、高橋運輸企画専門官
	市出席者(委員以外)	飯沼企画政策課長、猿田企画担当係長
	NTT出席者	矢沢、天田、峰村、石垣、我孫子
6	公開・非公開の別	公開
7	記者	3人
8	会議概要作成年月日	平成18年9月28日

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議の概要

- (1) 開会 (熊井首席運輸企画専門官)
- (2) 挨拶 (奥山教授)
- (3) 議題 (事務局)
  - ① アンケート調査の実施結果について
  - ② 観光実態調査の実施結果について
  - ③ ワークショップ等の開催状況について
  - ④ その他
- (4) 閉会 (熊井首席運輸企画専門官)

#### 2 協議概要

- ① アンケート調査の実施結果について(事務局より説明)
  - ・ 実施数 **16,328** 通配布 回収 **8,195** 通(9/25 現在) 回収率 **50.2%**

##### <住民アンケート調査分析>

- ・ 各項目のサンプル数は、全ての方がお答え頂いていないため揃っていない。

##### 「単純集計」

- ・ (問 1.①性別) 6割強が女性の回答であった。
- ・ (問 1.②年齢) 65歳以上が **92.2%**、75歳以上が **43%**であった。
- ・ (問 1.③居住地区) 旧町村、地区ごとに人口比率で同数位であった。
- ・ (問 1.④自動車の運転) 6割弱の方が運転しない方であった。
- ・ (問 1.⑤家族構成) 家族構成は約7割が社会人で、少人数の家族が多い。2人世帯が約3割である。

##### 問 2.動線把握のための分析

- ・ (問 2.普段の買物先) 第1位には豊科地域の大型店が多い。また、総合的に大型店への買い物先が多く見られる。第3位に安曇野市外の大型店とあるが、松本と思われる。地区ごとの購買に関しては豊科地域が受け入れている傾向が見られる。
- ・ (問 2.普段の買物 交通手段) 自家用車(自分で運転)が約**40%**、家族の運転が約**30%**、自転車・バイクが約**15%**であった。交通施策が低い件数であった。
- ・ (問 2.普段の買物回数) 週**1～2**回が多く、自家用車に依存している。
- ・ (問 2.普段の買物時間) 午前**10:00～12:00**が多く、半数が午前中に帰宅している。
- ・ (問 2.通院先) 穂高地域内の病院が最も多く、豊科地域内の病院、安曇野赤十字病院と続いている。各地域の需要率が高いことがわかる。
- ・ (問 2.通院方法) 自家用車への依存率が約**4**割と多いが、買い物に比べタクシー利用が増え

ている。

- ・ (問 2.通院回数) 月 1 回程度が多い。
- ・ (問 2.通院時間) 買い物よりも早い時間が多く、午前中に帰宅する。午前中に集中した移動が多い。
- ・ (問 2.公共施設先) 郵便局、銀行の金融機関が多い。親戚・知人宅は第 3 位であった。
- ・ (問 2.公共施設方法) 自家用車での移動が多く、家族が運転は少ない。
- ・ (問 2.公共施設回数) 月 1 回程度が多い。
- ・ (問 2.公共施設時間) 午前中に移動が完了する。約 70%の方が午前中に帰宅する。
- ・ (問 2.組合せ整理) 項目ごとに次のような動線がわかる。
  - <買い物> 豊科地域大型店へ車(自分で運転)で、週 1~2 回、AM10:00~12:00 に行き、AM10:00~12:00 に帰宅する。
  - <通院> 穂高地域内の病院へ車(自分で運転)で、月 1 回程度、AM8:00~10:00 に行き、AM10:00~12:00 に帰宅する。
  - <公共施設等> 郵便局へ車(自分で運転)で、月 1 回程度、AM8:00~10:00 に行き、AM10:00~12:00 に帰宅する。
- ・ (問 3.①利用されている交通施策) 利用されているが約 17%であった。
- ・ (問 3.②利用状況) 月 1 回、2 回~3 回程度が多い順である。
- ・ (問 3.③交通施策の認知度) ぐるまるくんが多い。地域毎の人口構成比から見ると、うららカーの認知度が高く見られた。
- ・ (問 3.④利用目的) 通院が最も多く使われている。通院・買い物で約 6 割強となっている。
- ・ (問 3.⑤交通施策への不満) 使っている方と使っていない方の要望・不満は違う。必要な時間に運行していない、便数が少ないが多い回答であった。次回、詳細分析にて報告する。
- ・ (問 3.⑥継続または運行を望む施策) 人口構成比から見ると、市営循環バスが多い。
- ・ (問 4.新しい交通システムの利用料金) クロス集計による報告とする。
- ・ (問 5.通勤時間) 通勤の行き帰りは早い時間であった。
- ・ (問 5.通勤手段) 移動手段では歩き、自転車・バイクが多い。タクシーによる通勤が 7.4%であった。
- ・ (問 5.通勤先) 通勤先は松本市が多い。長野が比較的少ない。
- ・ (問 6.②通学等の交通手段) 約 1/4 の家庭が家族による送迎をしている。(約 500 人/日)
- ・ (問 6.③帰りの降車時間) 通勤者の帰宅時間より遅いといった実態である。
- ・ (問 6.⑥通学時の不安) 交通事故が最も多く、知らない人との接触が不安と続いている。
- ・ (問 6.⑦新しい交通システムの通学時利用) 毎日利用する。天候により利用するが多い。
- ・ (問 7.通勤以外交通手段) 県内への移動は自家用車、県外へは JR、高速バスが多い。
- ・ (問 7.回数) 松本、安曇野地域で生活が生活圈と見られる。長野市は少ない。

「クロス集計」

- ・ (問 1.③居住地区-買物) 買物はいずれの地域でも地域内の店を選択した率が高い。穂高以外の地域は豊科地域へ流出している。穂高地区は、地域内の店へ留まる動線となっている。
- ・ (問 1.③居住地区-通院) 買物と同様に居住地域内の病院を選択した率が高い。
- ・ (問 1.③居住地区-公共施設) ある程度地域内での移動が見える。
- ・ (移動動線-買物) 豊科地域、穂高地区では、ほぼ地域内で終始している。三郷地域は地域内及び豊科地域へ、堀金地域は大きく豊科地域への動線が見える。明科地域は、豊科地域、穂高地域への動線が見える。
- ・ (移動動線-通院) 穂高地域は若干豊科地域へ、三郷地域は豊科地域へ、堀金地域は豊科地域、穂高地域へ、明科地域は豊科地域、穂高地域への動線が見える。もう少し分析が必要。
- ・ (問 3.①利用されている交通施策) 明科地区市営バスと堀金地区うららカーが約 4 割を超えている。
- ・ (問 3.②利用状況) 堀金地区及び明科地区では、月 2~3 回と多くなっている。
- ・ (問 3.④利用目的) もう少し分析が必要。
- ・ (問 3.⑤交通施策への不満) 地域別に見ても特に目立ったものはない。
- ・ (問 3.⑥継続または運行を望む施策) 継続を望まれる傾向がある。ぐるまるくん・市営バス・

福祉バスが多い。支持率が高いのは、うららカーで堀金三田地区では **85.9%**である。

- ・ (問 4.①利用料金) 低料金の要望が多い。堀金地域で **300** 円以下の率が **3** 割強と高いが、うららカーの金額に納得した形での結果か。
- ・ 次回までに利用したい目的についてはもう少し分析を行う。

座 長：質問、ご意見がありましたらお願いしたい。 無し。

## ② 観光実態調査の実施結果について（事務局より説明）

### <観光アンケート調査分析>

- ・ 観光地アンケートは他県ではあまり例がないほどの回答を得られ、仔細にデータが取れた。
- ・ (問 3.回答者の居住地) 関東地方から約 **40%**、中部地方から約 **30%**、関西地方から約 **15%**であった。中央自動車道に沿ってアクセスのし易さから、観光地として選択されているのではないか。
- ・ (問 4.今回の旅行のグループ) 夏休みであったため、ご家族での旅行が過半数を占めた。
- ・ (問 5.旅行目的) 観光施設見学と自然観賞、散策が多い目的であった。
- ・ (問 9.今回の旅行の日程) 約半数は、多地域を主目的での宿泊であった。安曇野へ宿泊旅行目的を僅かに上回った。
- ・ (問 11.観光情報の入手先) 新聞、雑誌からの情報も多いが、インターネットが最も多く情報入手先の主流になっている。
- ・ (問 12.満足度) 全体として、**6** 割強の方の満足度が高い結果であった。接客、宿泊に対して、満足の度合いが高かった。
- ・ (問 13.移住) 具体的に移住計画がある方が **2.3%**であった。安曇野地域への観光はリピート率が高いため、リピートでこられる方の中には、条件が許せば移住したいと思われているのではないか。
- ・ 自由記述については、詳細を整理し提出いたします。

座 長：観光実態調査分析結果について、確認事項、更に分析を進める事項、ご意見等ありましたらお願いしたい。アンケート集計の中で、安曇野地域に来られる前に宿泊されていた地域の分析はありますか。

事務局 (NTT)：アンケートの中では、細分していない。

座 長：現状でのアンケート分析結果での議論をお願いしたい。 無し。

## ③ ワークショップ等の開催状況について（事務局より説明）

### <安曇野市（明科）公共交通問題検討のためのワークショップ「方向シート」まとめ>

- ・ 9月3日の明科地域ワークショップでは、**54**名6班編成で方向性をまとめた。
- ・ 目的地への接続、ハード面の整備、利用者・近隣住民への配慮、料金等でご意見をいただいた。
- ・ 豊科・穂高方面への接続、既存の運行便数を増やして欲しい等のご意見が多くあった。

### <安曇野市公共交通問題検討のためのワークショップ 成果まとめ>

- ・ 全てのワークショップをまとめた資料説明。
- ・ **1.機能・効用・便益**で整理した資料 **2.運行形態**で整理した資料 **3.公共交通構築条件**で整理した資料 **4.公共交通システム実現のための対応**で整理した資料
- ・ 公共交通の整備について要望が強く、弊害等が伺える資料となっている。
- ・ 資料の中で、利用しやすいこと、きめ細かなサービス・運行であること等集約されている。

### <穂高地域公共交通問題 課題・要望等聞き取り内容まとめ>

- ・ 穂高老人クラブ連合会、女性部長様等の会議にて意見集約を行った。参加者 **24**名。
- ・ 公共交通について要望、既存の観光周遊バス、外出支援事業、堀金デマンド交通について意見をいただいた。

### <三郷地域公共交通問題 課題・要望等聞き取り内容まとめ>

- ・ 社会福祉協議会で開催の地区毎のサロンで聞き取りを行った。

- ・ 交通体制全般の要望、地域バス、乗合タクシー、福祉バス等について意見をいただいた。
- <堀金地域公共交通問題 課題・要望等聞き取り内容まとめ>
- ・ 9月5日からの敬老会で聞き取りを行った。
  - ・ 堀金地域はうららカーが運行しているので、満足している方が多かった。
  - ・ 117名からの回答で、51名が満足している方、更なる内容の充実を求める方、反対意見1名の意見をいただいた。

- ・ 総勢、870名の方の中からご意見をいただいた。(ワークショップを含め)

座長：ワークショップ等の開催状況結果について、お気づきの点があればお願いしたい。 無し。

④ その他 (事務局より説明)

<安曇野市住民利用施設マップ>

- ・ 第二回検討委員会での座長よりの指示を頂き、まとめた資料説明。
- ・ 安曇野市の住民の皆様が利用している施設を記載。

<安曇野市観光マップ>

- ・ 観光アンケートで主要な観光施設として挙げたものを記載。
- ・ アンケートによる観光施設立寄りベスト9で挙げた、一部松川村のちひろ美術館、とんぼ玉美術館も含めてマップを作成。
- ・ 公共交通機関、観光での渋滞箇所、観光地を繋いで見た場合の距離、時間を記載。
- ・ 観光箇所を一周すると約2時間かかると想定される。

<平成18年度 安曇野・穂高周遊バス輸送実績>

- ・ 松本電鉄様にお願した今年度の安曇野・穂高周遊バスの輸送実績を日付、時刻表によって資料用意説明。
- ・ 今年度は63日間運行で、9月18日に終了している。6,518人、1日平均103.5人が実績。
- ・ 平成17年度実績は、6,834人 62日間運行
- ・ 平成16年度実績は、6,905人 58日間運行
- ・ 運行日は長くなっているが、乗車人数は減っている傾向がある。

<安曇野市主要観光イベント(平成18年度)の整理>

- ・ 安曇野での主要イベントで公共性の高ものを4月から11月まで記載。

<「うららカー」サービスエリア等>

- ・ 第二回検討委員会にて、堀金地区で運行しているデマンド交通の資料提示のご意見があり、用意した資料説明。
- ・ 運行内容の詳細は全国での事例のビデオにてご覧いただく。
- ・ うららカーの基本運行エリアを説明。
- ・ 時刻表は、午前8時便から午後4時30分便までが昼間の運行で、30分単位で堀金方面から豊科方面、豊科方面から堀金方面へ、安曇観光タクシー様、南安タクシー様からタクシーを借り上げ運行している。
- ・ エリア以外に、豊科IC、田沢駅等を飛び地とし、途中下車はできない形で運行している。
- ・ 料金はエリア内300円、飛び地は600円で運行している。
- ・ ナイトラインの時刻表は、概ね大糸線下り電車、豊科駅到着の時刻表に合わせた形で、豊科駅から自宅までの運行を行っている。また、夏休み等の長期休みの期間は運休している。
- ・ 第二回検討委員会で、ぐるまるくんについて、武蔵野市ムーバスのモデルとの比較の質問があったが、ムーバスは、わかり易い運賃体系、短い間隔でバス停を作る、小型バスを用いて狭い道も走るが基本とお聞きするが、ぐるまるくんは料金100円、75歳以上は無料、小型バスを利用し、南安タクシー様にて運行を行っている。

座長：詳細に施設、観光に関する情報を地図に入れ、これから検討を行っていくうえで役に立つ

資料と思われる。

これから、うららカーの母体ともいえる福島県小高町で平成**13**年**6**月から運行している「おだかe-まちタクシー」を見ていただく。平成**16**年度に総務大臣賞を受賞した際、総務省の外郭団体「地域活性化センター」を通して作成したビデオで、良いことを行っている地域の実情を目で見て、できるだけ多くの方に地域にあった形で、導入できるよう促進を図るためにビデオを作製したと聞いている。

ビデオの後、意見交換をお願いしたい。

<総務大臣賞受賞 紹介ビデオ 福島県小高町編鑑賞>

座 長：デマンド交通は、電話予約による配車管理システムです。システムを使わずに、観光デマンドと称して、お客様からタクシー会社が電話を受け、送迎する等行っている地域もある。デマンド交通システムは、全国に**27**箇所導入され、全国デマンド協議会を発足し、情報共有を行っている。

ビデオではオペレーターが乗車していたが、本来は乗車していない。住民であれば誰でも登録し利用できるサービスであるが、女性のお年寄りの利用が多かった。

うららカーは、社会福祉協議会で運行しているが、全国では、商工会**18**箇所、社会福祉協議会**7**箇所、行政**2**箇所で行っている。

バス会社、タクシー会社に地域交通を丸投げしないで、できるだけ利用者の視点から地域交通を考え、日々データによる改善改良を加えていくことが柱となっている。

小高町では、**H17**年の夏の終わりから幼稚園、今年の**4**月から小学校（一部）の送迎を始め、約**30**名弱が利用している。一日平均、**140**～**150**名、多い時で**180**名を**4**台のタクシーで運行している。アンケートにもあったが、午前中で約**7**割の方の送迎が終わる。

**1**時間で**30**名程度のオーダーを受付、配車等運行管理を行っている。それができるとに大きな特徴がある。うららカーの母体となった実情をご理解いただきたい。

地域交通では、乗車数は非常に少ないこと的前提からスタートしないと大きく失敗する。利用しない人がいかにも利用するという声を、地域交通へ投げかけると、路線増、便数増等の要望を上げるが、実際に路線を広げ、便数を増やせばますます乗らなくなる。更に行政コストが増えていくというのが全国の地域交通の悩みになっている。

本当に乗りたい人が電話をしていただければ、戸口から戸口へ送迎する。乗りたい人に乗り物を併せる。乗り物を時間、路線を決めて走らせ、それに人が併せるというとなかなか利用者が伸びない。ビデオを見て、介護サービスだといった人がいるが、介護認定を受けている人がまさに**21**条のデマンドを利用しているのが実態である。

第二回検討委員会で運輸局から説明があったが、福祉輸送であれ、過疎地輸送であれ、生活路線輸送であれ、利用者が喜んで乗っていただくか。どう条文で解釈しているかだけである。一番はこの委員会で実需といわれるものを描き出し、地域の実態に併せ地域の交通を考えていくことが大事である。

デマンドにできないことは、定員以上は乗せられない事。**1**回につきジャンボタクシーで**8**名、小型車両であれば**3**名乗車、乗車が多い場合は、車両を用意するという制約がある。資料、住民アンケート、観光アンケート、ワークショップ等についてご意見、質問等ありましたらお願いしたい。今後の検討、ご意見ご要望をお願いしたい。

委 員：アンケート説明で、通勤・通学でタクシー利用が多いとあったが、どの地区からどこまで利用しているかの資料を出して欲しい。

堀金地区のうららカーでのどういう時間に何処から何処まで利用しているか等のデータを出して欲しい。

小高町も合併したが、交通システムについてどのような動きをしたか、比較検討させてもらいたい。

座 長：タクシーについては、タクシー券の利用等もあるかと思うので、次回までに実態の資料を出していただきたい。（事務局了解）

うららカーの実績データも同様に出していただきたい。（事務局了解）

小高町の合併については、現在南相馬市となっている。（小高町、鹿島町、原町市）人口約**80,000**人弱となった。現在、地域交通を考えるということで動き始めている。

原町地区、鹿島地区の住民からは、合併後早くデマンドを広げて欲しいといった要望がある。10月の市議選後に対応予定。デマンドを広げる準備はしているが、委員会はまだ立ち上がっていない。

委員：ドライバーの労働条件、賃金はどうなっているのか。タクシー会社の母体があるからデマンド交通ができる。労働条件、時間給等わかる範囲で教えて欲しい。

座長：小高では、5年経過し、今年の6月に111,111人達成した。タクシー会社2社と6名ほどで、意見交換を行った。小高では、1時間の借り上げ料金を2,4XX円でスタートし、2社のタクシー会社の総売上が117%となった。行政より借り上げ料金を2,000円まで下げた。2年間続き、総売上が101%までになった。新規タクシー事業者が安い料金でデマンドを運行させてくれときたが、旧タクシー会社2社で行う。ガソリン料金の値上げに伴い、借り上げ料金を2,200円へ上げ、1日4.5時間増とした。1台フルで運行し、1台当たり18,000円が入っている。配分の仕方は、タクシー会社へ任せている。ドライバーは60歳以上のパートで働いていただいている方で1週間の運行を分けて運転していただいている。どのように儲けたいか、タクシー会社が新規ビジネス、都会のように夜集中、顧客集中で行う方法もある。小高の場合ドライバー6人中3人からは今後も今のように手伝っていきたいと言われ、もっと収益を上げたいドライバーには、片道1,000円で病院へ行っている便を運転していただく等の事業展開を考えている。

儲かる話の提案ではない。地域交通を地域がどういう形で支えていくか、地域の交通事業者とどういう考えで交通を支えていただくか。地域がどういう交通をどういう事業者と手を携えて地域交通を作っていくかを、今程真剣に検討しなければいけない時ではないか。タクシー会社では、福祉輸送、過疎地輸送といった波が来る。バス会社にとってもタクシー会社が同じ乗合で事業を広げていく可能性もある。地域全体でどれだけの輸送サービスを望んでいるかと、その市場の大きさをタクシー会社と地域が共同で生み出すことにより、取り分を地域の事業者が是非獲得していく方向で協力を願っていけないか。

何処まで協力できるかは、地域の実情に合わせて事業者と、運行、料金を話し合う。事業者の協力なくしてデマンド交通を続けていくことはできない。小高の場合、タクシー会社2社に必ず数字をオープンにして、運輸局に提出している輸送売り上げを運行委員会にも提示いただいている。データに基づいて客観的にどういう事業者にどういう協力をいただけるかのスキーム作りが大切である。

デマンドでも、全てに万能は無理。問題全てに改善、改良を行っていくのが現実である。地域が思い切ってチャレンジしていくことが大切ではないか。

委員：子供たちの交通について、治安が不安であるが、教育委員会の協力をいただいて遠距離通学をしている子供たちの把握をして欲しい。

事務局：次回に向けて用意します。

座長：福島県中島村では、スクール運行を主目的にデマンド交通で行っている。隣町の大きな学校へ2方向に地元の高校生を直接送迎することを行っている。地域に本当の意味で子育て支援、学校へ通うことを公的サービスとして、地域が覚悟を決めれば、薄い負担で利用いただけるスクール運行はできる。

積極的にこういうことが出来ないか、問題を抱えている事等を事務局へ投げかけて、実態のデータを委員会に出していただけるようお願いしたい。

安曇野で医療機関の送迎サービスを行っている医療機関はあるか。

委員：医療機関はない。デイサービスが併設されていれば、行っているかもしれない。

座長：その他、次回に向けて意見はございますか。無し

事務局へ戻します。

事務局：次回の開催日程について

第4回 検討委員会 平成18年10月30日(月)

第5回 検討委員会 平成18年11月27日(月)

堀金支所にて開催を予定する。

次回には、0次案を提案いただく予定です。質問等は、事務局へお願いします。

長時間にわたりありがとうございました。